

国語

小学5年

この本の使い方と特色

この本は、小学校四年生までに学んだことから、五年生で習うことへの橋わたしになることがらを、短い期間でむりなく、そうごう的に学習できるように作られたものです。

- **全体の構成** 物語・随筆・論説文・説明文・詩のそれぞれの読解問題と、漢字・ことばの問題に分かれています。
- **単元の構成** 一つの単元は、見開き完結。読解問題は、詩をのぞいて、一単元で一作品を学習するようになっています。漢字・ことばの単元では、送りがなや、かなづかい、ことわざ、慣用句の問題などを出題しています。

目次

| | | | |
|----------------|----|--------------|----|
| 1 物語(1) | 2 | 7 説明文 | 14 |
| 2 物語(2) | 4 | 8 詩(1) | 16 |
| 3 随筆(1) | 6 | 9 詩(2) | 18 |
| 4 随筆(2) | 8 | 10 漢字 | 20 |
| 5 論説文(1) | 10 | 11 語句 | 22 |
| 6 論説文(2) | 12 | | |

1

物語 (1)

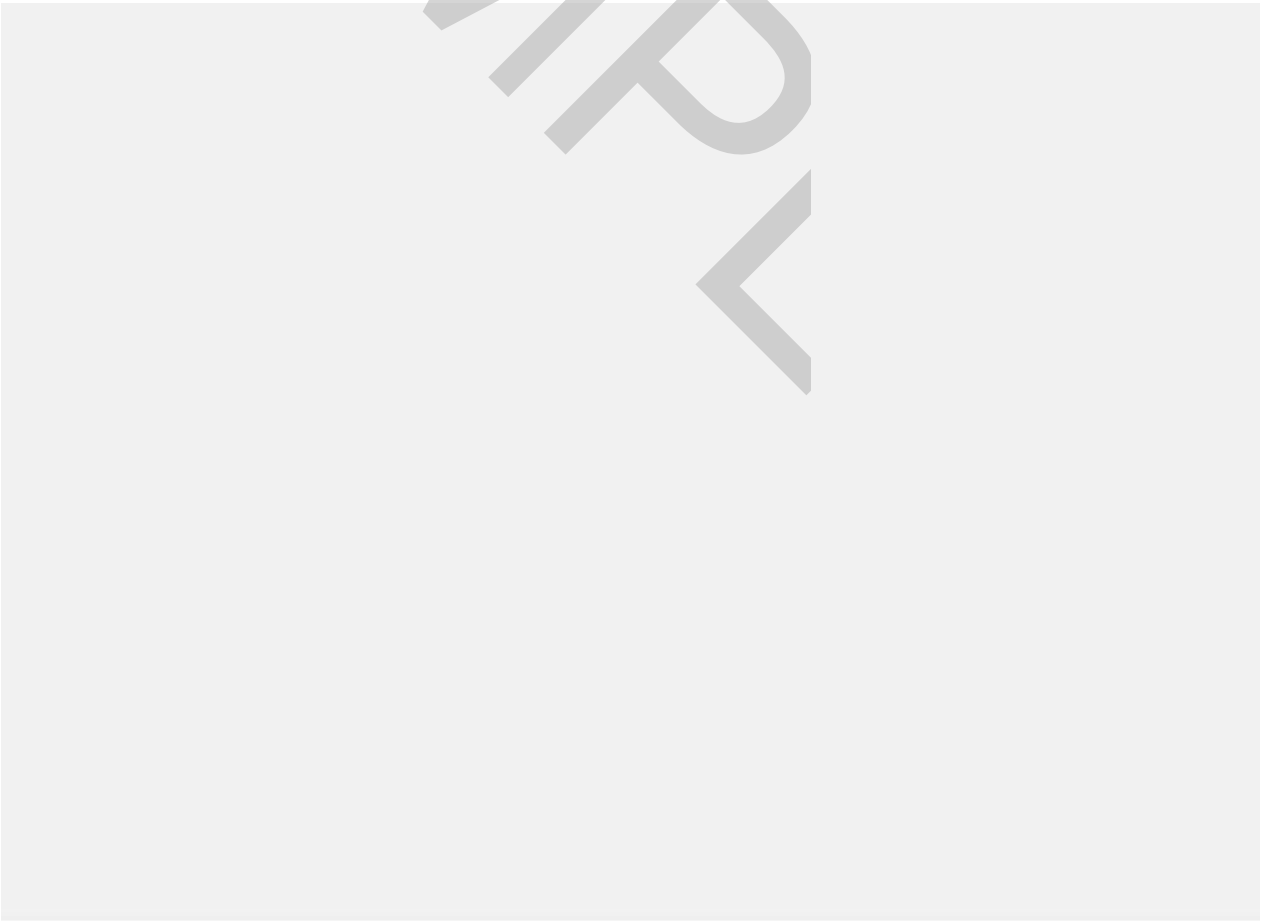
学習日

/

● 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。



20 15 10 5



40 35 30 25

〈笹山久三「幼年記 かがやく大気のなかで」より〉

(注) イタンポ(いたどり) Ⅱ野草。わかいくきは食べられる。

- (1) ①・②に入る最もふさわしいことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア 腕 イ 声
ウ 顔 エ 目

| | |
|---|--|
| ① | |
| ② | |

- (2) 本文の場面にえがかれている季節はいつごろですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 夏から秋に変わるころ。 イ 春の初めのころ。
ウ 春から夏に変わるころ。 エ 秋の終わりのころ。

- (3) 線①「茅を体で押し退けるようにして、枯れた茂みに分け入る」とありますが、茅の原では、茅はどのように生えていますか。それが書かれている一文を本文中からさがし、その最初の五字を書きぬいて答えなさい。

| |
|-------|
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

- (4) 線②「声が、思っていたより遠かったりすると、めざしたところには何もなかったことにして、兄ちゃんのところにあわてて戻る」とありますが、このときの「オラ」の気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 兄よりも先にイタンポを採りたいとあせっている気持ち。
イ 自分勝手な行動を兄にしかられるのをおそれている気持ち。
ウ 兄となかよくイタンポを採りたいと願っている気持ち。
エ 取り残されるのがこわく、心細くなっている気持ち。

- (5) 線③「同じような場所を探して歩く」とありますが、「オラ」は、自分が何をした場所と同じような所を探して歩いたのですか。「場所」という形で、書いて答えなさい。

| |
|-------|
| ----- |
| 場所。 |

- (6) Ⅰの部分での「オラ」の気持ちのうつり変わりを表した場合に最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア (失望↓期待↓満足)
イ (後かい↓喜び↓感動)
ウ (ふゆかい↓不安↓安心)
エ (悲しみ↓こうふん↓落たん)

- (7) この文章の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 読み手に親しげな口調で語りかけることで、作者は、自分のうったえたいことをはっきりと伝えている。
イ たとえの表現を多く用いることで、場面の情景や主人公の気持ちを生き生きと表している。
ウ 主人公が読み手に語りかける形で文章を書き、主人公の気持ちの動きを細やかにえがいている。
エ 起こった出来事を感情をまじえないでえがき、その場面の緊迫感をありありと伝えている。

2

物語 (2)

学習日 /

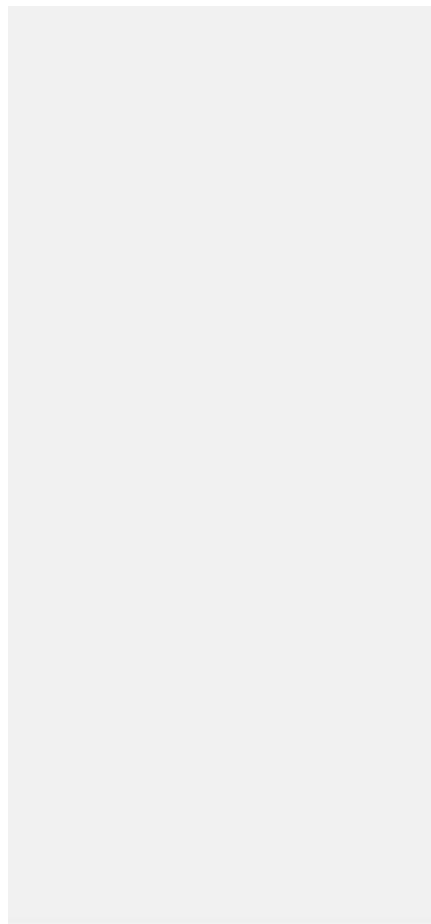
● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



20 15 10 5



45 40 35 30 25



〈岡田淳「雨やどりはすべり台の下で」より〉

□(1)

①

⑤

に入る最もふさわしいことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません)

ア 笑った

イ きよんとんとしてた

ウ わたしに頭を下げた

エ 尚代をにらみつけた

オ いせいのいい声を上げた

| |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |
| ⑤ |

□(2)

——線①「ぎらぎら光る目」は、尚代のどんな気持ちを表していますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 圭子に対して暴力をふるってしまったことを反省し、くやんでいる気持ち。

イ 先生から一方的に悪者にされたことがくやしく、いかりでいっぱいのもので、気持ち。

ウ 先生に本当のことをわかってもらえないのがさびしく、悲しみにしずんでいる気持ち。

エ 本当のことを知っているはずの「わたし」がだまっていることにはらを立てている気持ち。

□(3)

——線②「わたし、くやしくてなみだが出た」とありますが、「わたし」は、特にどんなことがくやしかったのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 先生が、「わたし」を無視して、尚代とばかり話をしたこと。

イ 「わたし」の説明がへたで、先生に真実が伝わらなかったこと。

ウ 先生が、話を聞いても、自分のあやまちをみとめなかったこと。

エ 「わたし」の話を、先生がまったく信じてくれなかったこと。

□(4)

——線③「そのこと」とは、どんなことですか。「〜こと。」という形で書いて答えなさい。

こと。

□(5)

——線④「こんな親子」とは、どんな親子ですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア おたがいに相手の心を深く思いやっている親子。

イ いつでも、れいぎ正しくあいさつをかわし合う親子。

ウ 親しい友達どうしのように、軽口をたたき合える親子。

エ 仲が悪くて、おたがいに相手をにくみ合っている親子。

3

随筆(1)

学習日

/

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



(注) タイムリミットにかぎられた、しめ切りの時間。

〈俵万智「かすみ草のおねえさん」より〉

□(1) — 線①「花を買った」とありますが、このとき「わたし」は、何のため

めに花を買ったのですか。その目的を、「ため」という形で、書いて答えなさい。

| |
|-----|
| |
| |
| |
| |
| ため。 |

□(2) — 線②「札に書いてある値段の意味がよくわからなかった」とありますが、「わたし」は、具体的には、どのようなことがわからなかったのですか。次の一文の□に入る内容を、「それとも」という形で、書いて答えなさい。

〈札に書かれた「四百円」が、と
いうことがわからなかった。〉

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

□(3) — 線③「えつまあ、実はその、そうなんです」と言ったときの「わたし」の気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア さびしき イ うれしき
ウ 照れくさき エ はら立たしき

□(4) ※ に入る最もふさわしいことを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 不安 イ 不満
ウ 希望 エ 期待

□(5) — 線④「むねをなでおろして」は、「わたし」のどんな気持ちを表していますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 喜ぶ^{よろこぶ}気持ち。 イ 安心する気持ち。
ウ はり切る気持ち。 エ おどろく気持ち。

□(6) — 線⑤「その程度のこと」を、具体的に言いかえたことばとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 親切な店員さんの、心のこもったサービス。
イ 必要以上にかざり立てる、本来無用のサービス。

- ウ 買う人の気持ちを考えない、表面的なサービス。
エ どの店でもやっているような、当たり前前のサービス。

□(7) — 線⑥「応援してくれた」とは、具体的には、花屋のおねえさんがどうしてくれたことですか。それを述べた次の文の□に入ることはとしてふさわしいものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

〈おねえさんが、を使ってまでして、見事な花束を作ってくれたこと。〉

- ア オレンジのバラ イ 売り物のかすみ草
ウ きれいなリボン エ ごうかな包み紙

□(8) 本文の筆者が最も強く伝えたかったこととしてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 卒業してゆく先ばいに対してのあこがれの強さ。
イ 失恋に終わった「卒業式大作戦」での大変な苦勞。

- ウ 花束を作ってくれたおねえさんのさりげないやさしさ。
エ 初めて自分のお金で買ったバラの美しさに対する感動。